

アクセサリ

# 装飾品とは何か

人が装飾品（装身具）を身に着ける理由は「同じ物を身に着けることで同じ集団である意識をもつ」や「美しいものを身に着けることで邪気から身を護る」などが本来の目的であったといわれています。

しかし集団が成長するに従って社会的な身分や地位の差が発生するようになり、装飾品は視覚的に身分差を表す有効的な手段として重要視されるようになっていきます。

縄文時代における社会的身分差がどのようなものかは不明な点も多くここでは述べませんが、縄文人は様々なデザインの装飾品を作り、身に着けたようです。

装飾品の材料は獣の骨・角・牙や、土、木、漆、石（玉）などで、それらを使って作られた品は髪飾（櫛・簪など）、耳飾、首飾（玉飾り）、腕輪、足飾などがあります。

とくに、美しい色の石を磨き、形を整え、輝く『玉』を作るムラは縄文時代中期～晩期（今から 5000～2500 年前）には北信越地域に多くありました。現在の新潟県上越地方を流れる姫川と支流の小滝川、青海川からは硬玉（ヒスイなど）が採取できることから、周辺のムラではこれを使った玉作りが盛んでした。